

序

片平博文先生には、2016年3月をもって定年の期を迎えられます。立命館大学人文学会は、先生の積年のご功績を称え、深い感謝の意を表すため、ここに退職記念の論集を編んで献呈させていただくこととしました。

片平先生は、1974年3月に立命館大学文学部地理学科地理学専攻をご卒業後、立命館大学大学院文学研究科修士課程地理学専攻に進学され、1979年3月に同研究科博士課程地理学専攻を中退後、東京都立大学（現・首都大学東京）理学部地理学科に助手として着任されました。その後、1985年4月に立命館大学文学部助教授として任用され、1994年4月以来、教授として地理学専攻において教育・研究に尽力されました。またその間、「サウスオーストラリアの農業開発—小麦栽培地域の歴史地理—」を以って、1996年3月には本学より博士（文学）の学位を取得されました。31年もの長きにわたる先生のご足跡は、来年、創設90周年を迎える文学部の、そして2014年に創設80周年を祝した地理学専攻の歴史に刻み込まれていると申しても過言ではありません。

先生の専門分野は、主要研究業績一覧でもうかがわれるように、人文地理学（歴史地理学）および地誌学であり、なかでも土地に刻み込まれた日本の歴史時代の地理的環境・景観の復原、そして海外研究ではオーストラリアの半乾燥地域における農業開発に関する研究において常に学界を牽引されてきました。また、こうした専門分野での研究をふまえて、枕草子など平安期の文学作品に描かれたテキスト分析を通して、平安京の環境・景観の復原、さらには当時の生活者の姿を地理学的文脈のなかで捉えなおすことにより、日本史学や日本文学の領域とは異なる歴史時代研究の新たな地平を切り拓かれました。また、本学が採択された「21世紀COEプログラム」および「グローバルCOEプログラム」（文部科学省事業）においても、＜歴史災害研究＞という新たな研究領域の構築に寄与されるとともに、「立命館地理学」あるいは「立命館京都学」の名を国内外に高らしめることにも貢献されました。

先生は、教育・研究のみならず行政にも尽力され、数度にわたる地理学専攻の主任をはじめ、文学研究科の主事や研究科長、さらに全学役職としては学校法人立命館評議員など数多くの要職を歴任され、学部・大学院・全学の発展に貢献されました。先生の厚いご経験と高い見識が、いかに高く評価されてきたかがうかがわれるところです。

一方、先生は、立命館地理学会会長、人文地理学会理事・評議員・協議員、日本地理学会代議員、歴史地理学会評議員を歴任されるなど、多くの学会においてそれらの運営に貢献されました。また、長年にわたり高等学校地理教科書の執筆を続けてこられるとともに、地名事典をはじめとした各種事典の編纂にも参加され、地理学の普及活動にも尽力されました。さらには、市民を対象としたさまざまな講座などにおいてもわかりやすく講演され、「立命館地理学」あるいは「立命館京都学」の真髄を広く伝えられることに貢献されました。

文学部教授会は、永年のご貢献に謝意を表するため、来る4月1日付で先生に名誉教授の称号をお贈りするよう手続きを進めているところです。今後とも、わたくしども後進を見守り、文学部および文学研究科の教学発展のため、ご助言を賜ることができますれば幸いです。

2016年1月25日

立命館大学人文学会会長

文学部長 藤 卷 正 己